

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会本部会の概要

回数（作成課）	第7回本部会（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室）
日時	令和8年5月29日（金） 17時30分～18時45分
場所	さいたま市立沼影小学校 プレハブ校舎2F
出席者	内谷中学校長、浦和別所小学校長、西浦和小学校長、辻小学校長、浦和大里小学校長 家庭からの参加者1名 地域からの参加者4名 日本体育大学教授（学識経験者） 教育長、副教育長、管理部長、学校教育部長、生涯学習部長、管理部参事、管理部総合調整幹、学校教育部次長、武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長、教育課程指導課長
議事	1 第二期開校準備委員会について 2 第一期開校準備委員会の意見交換内容について 3 カリキュラムWGからの報告（日課表・クラブ活動について） 4 学識経験者より 5 その他

○教育長挨拶

本義務教育学校整備事業について、三度目の入札が不調となったことを報告し、これまで講じた様々な対策にもかかわらず入札不調となったこと、地域や保護者、子どもたちに多大な不安と心配を与えたことについてお詫びの気持ちを伝えた。今後は社会情勢の影響の程度等を含め要因分析を行い、必要な対応を早急に検討・実施していくこと、状況が整い次第、保護者・地域に対して説明する予定であることを示した。また、開校準備委員会については、第二期として、これまでの成果を基盤としながら、より実効性のある意見交換や調査研究等を進めていく方針を示した。

1 第二期開校準備委員会について

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

- ・第二期における活動方針として、
 - ①第一期の成果を踏まえ各WGの調査研究を継続・深化すること
 - ②武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」の三つの柱の実現に向けた意見交換を行うこと
 - ③子どもの声も取り入れ、全ての人の Well-being につながる学校づくりを目指すこと
 以上3点について説明した。
- ・本委員会を構成する参加者の率直な意見交換を担保するため、本部会・WGともに会議は非公開とする。一方で、本委員会の内容については、可能な限り透明性を確保していくために、本部会の議事概要については市のHPで公開していくことを説明した。
- ・参加者選出の際にいただいた個人情報、本会議に関する事務以外の目的には使用しないことを説明した。
- ・本部会会長・副会長選出については、設置要綱第6条に基づき、参加者の互選により会長を選出した。その後会長より、副会長の3名が指名された。

2 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

- ・第一期では、4,151名の意見（子ども含む）を基に開校準備委員会本部会で意見交換を重ね、本義務教育学校の「未来の姿」を共有した。

- ・校名・移行イベントWG及び本部会でそれぞれ意見交換を重ね、校名案を上位2案、下位3案の5案に絞り込んだ。現在、その結果を参考に、教育委員会事務局内に設置した「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校校名検討委員会」において検討を進めている段階である。今後1案に絞り込み、学校設置条例の改正案として提出すると説明した。
- ・通学区域WGでは、通学区域についての意見交換を重ね、本部会での意見も踏まえながらWG案を作成、共有した。
- ・他にも、各WGでは、カリキュラム、学校生活、地域協働、安全管理、給食室運営、施設整備、開校行事など、開校に向けた実務的課題についても準備が進展した。

3 カリキュラムWGからの報告（日課表・クラブ活動について）

（教育課程指導課長からの説明）

昨年度に実施したWGの活動報告として、日課表とクラブ活動にかかる意見交換の内容について説明した。

日課表に関しては、小学校（45分）と中学校（50分）における一般的な授業時間の違いに対応する必要性を共有し、従来の時間設定にとらわれない柔軟な教育課程の編成の可能性について研究していくことや、子どもが落ち着いて生活できる環境づくりに加え、学習に集中できる環境を整える時間構成等の工夫について研究を深めていくという方向性を示した。

クラブ活動については、4年生と5、6年生がそれぞれ別の校舎ではあるが、一般的にクラブ活動を実施している4～6年生を中心に考えることを基本としつつ、児童の主体性を尊重した運営を第一とする方針とした。

また、内谷校舎と浦和大里校舎においては、4年生が中心のクラブ活動を軸としつつも、場合によっては3年生まで活動範囲を広げる可能性があること、また校舎間連携による交流の機会を創出するといった方向性で、内谷中学校・沼影小学校・浦和大里小学校とともに開校に向けて準備を進める中で検証を深めていくと報告した。

（参加者からの主な質問・意見）

○授業時間の弾力化について、今年度より45分授業を導入している内谷中学校の実践では、おおむね順調に適応しており、教員・生徒ともに柔軟に対応できている。そこから創出した時間を7時間目として活用しているとの報告があった。

○クラブ活動と中学校の部活動との接続について、小学校段階のクラブ活動から中学校段階の部活動への円滑な移行を意識した仕組みづくりが必要ではないかとの意見が出された。

→教育課程指導課長からの回答

・WGの意見交換でも同様の意見があったので、今後引き続き検討していく。

4 学識経験者より

三度の入札不調というのは他自治体においても例があり、そういった状況は厳しくはあるものの、開校準備のための意見交換を充実させる機会と捉えたい。

第一期開校準備委員会において共有された本義務教育学校の「未来の姿」が既に土台として存在していることを踏まえ、今後の第二期ではその土台に対して具体的な内容を肉付けしていくプロセスに関わることにについて、改めて身の引き締まる思いでいる。皆様の意見交換や取組をお支えできればと考えている。

カリキュラムWGに参加した際に、授業時間について「常識にとらわれない発想」のもと意見交換されていた。現在一般的に小・中学校が取っている授業時間は歴史的に形成されてきたものであり、小学校45分、中学校50分で実施されている。教育心理学の先生方にお伺いしたことがあるが、実際のところ小学校低学年児童が45分間集中し続けるのは困難であり、教師は例えば15分に1回程度の頻度で話題を転換し集中して授業に参加できるよう工夫しており、1単位時間の長さよりもその影響が大きいとのことであった。先行事例として小学校での40分授業、中学校での45分授業を導入している自治体の学校でも児童生徒は数か月で適応できるとの実例もある。内谷中と同様である。そういった事例も参考にしながら引き続き皆様と意見交換を進めていけるとよい。

5 その他

(参加者からの主な意見)

- 通学区域について、一部地域について本義務教育学校への通学が可能かどうか改めて考慮できないかという言及があった。
- 新設沼影校舎の建設予定地の活用について、現在の状況が長期間続くのであれば、子どもたちのために何か活用できないか意見交換を行うのはどうかとの意見があった。
- 建設予定地周辺の地域は子どもたちがボールを使って遊ぶことのできる場所が少ないため、空き地のようにになっている部分については、そういった用途に使える場所として一時転用できるとよいとの意見があった。
- 第一期開校準備委員会では、数多くの前向きな意見が出され、理想の学校像や子どもたちの未来など、夢に満ちた意見交換が深まったと感じている。たとえ開校が遅れている状況であっても、いざ学校建設が始まった際に後れを取らないように準備を進めていくことが開校準備委員会の役割だと考え、よりよい内容となるよう参加していきたいという意見があった。